



地面に置かれたイエス様を見つめて ヴィタリ ドメニコ神父

古代から多くの方がご降誕の場面を描こうとしてきました。ご生誕の様子について、聖書によれば馬小屋で幼いイエス様が飼い葉桶に寝かされたと記してありますが、何人かの画家は飼い葉桶ではなくて地面に置かれた赤ちゃんを描いています。おそらくそれは単に馬小屋に生まれたという事ではなく「この世に来られた赤ちゃん」として描きたかったのではないかと思います。

確かにこの世は馬小屋のようなものです。馬小屋の乏しさは私達の人間の乏しさでもあって、私達の社会も動物たちの小屋同様に寒く汚いことを示しているように感じます。

現代の街に目を向ければ既にいろいろな飾りでいっぱいです。確かに私達はクリスマスに近づくと多くの事を期待し、又多くの喜びに心を引き付けられます。地面に置かれている裸の赤ちゃんを見つめていると、喜びの象徴であると同時に、人の子となって背負う悲劇をも示しているのではないかと感じます。

何故そのような馬小屋で必要なものも暖かさもないところで生まれなければならなかったのでしょうか。

神であり豊かでありながら私達の救いのために貧しくなられた方です。私たち人間の失敗を贖うために生活を始められたその方の生誕なのです。

クリスマスの時、私達は軽い気持ちでプ

レゼントを貰うことを考えてしまいましたが、地面に置かれているその赤ちゃんに多くを学ばなければなりません。

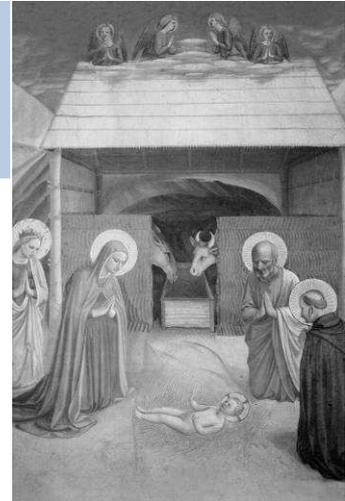
何の得をすることも無いのに、その姿をとり人間になられたイエス様の大きな愛と寛大さを学ばなければならぬでしょう。

羊飼いや博士たちとして描かれた私たち人間にイエス様は救いを注ぐために来られました。しかし救い主であるその赤ちゃんを人間は殺そうとし、イエス様はエジプトに逃げなければならぬでした。その赤ちゃんが追われている姿は、今の世界を表しています。

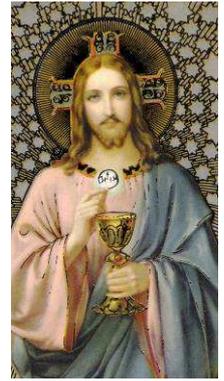
その追われている赤ちゃんを私達の心に暖かく迎えましょう。

その寛大さこそクリスマスを迎える心です。ナザレトでのイエス様の素朴な生い立ちも忘れてはいけません。私達も家族の中で愛することを学ばなければなりません。

だれにとってもクリスマスは、楽しい出来事やプレゼントの事を考える時かもしれませんが、街の飾りに惑わされず、一番大きなプレゼントはその赤ちゃんと生き方であることを忘れず、少しでもイエス様の生き方に倣うことができるようにいたしましょう。



ご聖体を届けてくださる新たな奉仕者です



11月20日に、新しく5人の方が、聖体授与の臨時の奉仕者に任命されましたので紹介します。これから1年間よろしく願いいたします。

マリア・カタリナ・マグダレナ YF

お役目を考えると大変緊張を感じますが、先輩方にならって大切な務めを果たしていきたいと思います。お役に立てれば幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

ピオ10世 TH

マリア・フランシスカ TH

今から40年前、神父様に連れられ危篤状態になられた方のところにお見舞いに行きました。その方は毎週ご家族で教会に来られ、若いころから教会の奉仕をしてくださっていた方でした。

神父様はその方の耳元で、今まで一緒に歩んできた道をひとつひとつ振り返り、今まで教会や家族のためにがんばってこられたことへの感謝と子ども達・家族のことは神様がいつまでも見守って下さるので心配しないようにと励まされ、手を握り一緒に祈りをささげられた後、胸の中から大切に持ってこられたホスチアを取り出し病気の方に授けられました。その方はゆっくりと首をふり、うなずき安心され穏やかな顔でおられました。

その時初めてご聖体を受けたくても受けられない方がおられることを経験し、安らかなお顔と神父様の素晴らしい仕事が忘れられませんでした。

あの経験から40年たった今、夫婦でこのチャンスが与えられたことに感謝しています。いろんな方との出会い、いろんな方との絆を大切にしながらこの2年間歩んでいこうと思います。よろしく願いいたします。

アシジのフランシスコ TY クララ NY

ヴィタリ神父から聖体授与の臨時の奉仕者の勉強をしてはどうかとお電話をいただきました。私たちのような信者歴が浅いものが果たしてお役に立てるのか不安になりましたが、代父母に相談したところ「ご聖体の大切さを自覚できる良い経験になる」と言われ、受けさせていただくことにしました。講座が進むにつれて不安よりもかみさまが共にいて励ましてくださるのを感じることができるようになりました。まだ受洗して6年でカトリックの典礼など勉強不足ですが、高齢や病気でなかなか教会に足を運べない方のお役に立つよう努力していきたいと思います。皆様のご指導よろしくお願いいたします。

クリスマス・年始のミサの時間

12月24日(土) 主の降誕前夜祭

- ☆第一ミサ 18:00(荘厳なグレゴリオ聖歌を中心としたミサ)
- ☆第二ミサ 20:00(ポピュラーなクリスマスの名曲を中心としたミサ)

12月25日(日) 主の降誕祭当日

- ☆夜半ミサ 0:00 (英語ミサ)
- ☆日中ミサ 10:00 (7:00ミサはありません)
- ☆ " 14:30 (英語ミサ)

《2017年》

1月 1日(元旦)

神の母聖マリア祭日・世界平和の日

- ☆平和祈願ミサ 0:00
- ☆平和祈願司教ミサ 11:00
- ☆平和祈願ミサ 14:30(英語ミサ)

1月15日(日)

9:30 サント・ニーニョのお祝い



侍者

TK

侍者（御ミサでの、神父様のお手伝い）に携わって随分になります。

私が侍者を始めたのは、小学校高学年からで、その頃は男だけの侍者隊で、毎週土曜日の午後から数時間練習があり、日曜日のミサで侍者をしていました。

あの頃は、侍者隊の人数も多く、普段の主日のミサは小学生だけでしていました。

クリスマス・復活祭・平和行事・司教ミサ等の大きなミサの時だけ、中学生・高校生と一緒に、そのミサではいつも緊張してドキドキしながらの侍者でした。

でも、そういうミサの手伝い出来るのが、なんだかとっても嬉しく気持ちが良い感じがしていたのを、思い出します。

最近は、侍者をする子供たちのまとめ役的なことをさせて頂いています。

私の子供が侍者を始める年頃になった時、教会学校に侍者のリーダーが居なく、侍者をする子供達もあまり多くなかったので、ちょっと係わったのが、いつの間にか約20年にもなってしまうしました。

今は、毎週の侍者練習なんて出来やしませんので、年2回程の侍者合宿をしています。

小学生から高校生までの子供達が、楽しく真剣にミサの進行・侍者の仕事・祭壇での動きなどを、勉強し練習しています。

大きなミサや、神父様によって動きが異なる事がよくあるが、その時に応じて大きな祭壇で臨機応変に対応して、神父様のお手伝いが出来

るよう何時も頑張っています。

今、侍者は小学一年生からの、男女ですが家庭の事情等で、人数が中々揃わない状況です。これから先、教会を担って行く子供達に侍者を通してしっかり育てていかないと・・・と思う。



編集後記

静かな出会い：気まぐれに小聖堂（聖母祭壇）を訪れることがある。他にも祈っておられる方が居られたりする。個々が何を祈っているのかは分からない。会話をするわけでもない。共に主に向かおうとする心を感じながら時の過ぎゆく静かな出会い。(の)